

# 平成22年度事業報告

公益財団法人 北九州活性化協議会

## 目次

|                               |            |
|-------------------------------|------------|
| I. 概況                         | …………… P 3  |
| II. 公益目的事業                    |            |
| 1. 一般事業                       |            |
| (1) 持続可能な環境への取り組み             | …………… P 3  |
| ① もったいないスクール2010の実施           |            |
| ② もったいない精神（こころ）の普及            |            |
| ③ もったいない塾の開催                  |            |
| ④ 広報活動                        |            |
| (2) 産学連携による高度人材の確保・育成への取り組み   | …………… P 5  |
| ① 北九州産業人材育成事業の企画・開発           |            |
| ② MBAプログラムによる社会人教育の実施         |            |
| (3) 次世代を担う人材の育成への取り組み         | …………… P 6  |
| ① 経済人による義務教育支援活動の推進           |            |
| ② 「僕らのハローワーク」事業の実施            |            |
| ③ ひまわり塾の開催                    |            |
| (4) 北九州の都市格向上への取り組み           | …………… P 8  |
| ① 「北九州ひとづくり寄金」事業の企画・開発        |            |
| ② 北九州ミュージックプロムナードの開催          |            |
| ③ 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画          |            |
| (5) 情報受発信・交流事業                | …………… P 9  |
| ① ABLEサロンの開催                  |            |
| ② 情報受発信の強化                    |            |
| ③ 地域おこし研修交流                   |            |
| (6) まちづくり推進事業の実施              | …………… P 10 |
| 2. 指定管理者事業                    |            |
| ・北九州イノベーションギャラリー（KIGS）指定管理者事業 | …………… P 11 |
| III. その他事業                    |            |
| ・スポーツ振興チケットによる青少年の健全育成事業      | …………… P 15 |
| IV. KPCC組織活性・強化事業             | …………… P 17 |
| (1) 会員サービス事業                  |            |
| (2) 会議等の実施                    |            |

## I. 概況

平成22年度のKPEC事業は、昨年3月の公益財団法人認定と設立20周年に設定した4つ（環境、イノベーション、人材育成、都市格の向上）のテーマを踏まえて、既存事業である「もったいない総研」事業の充実を図るとともに、新規事業となる「北九州地域産業人材育成事業」「経済人による義務教育支援事業」「北九州ひとづくり寄金事業」について、研究会をH21年度より継続実施し、基本計画の立案とH23年度事業実施に向けた準備・調整を行った。

指定管理事業である北九州イノベーションギャラリー（KIGS）については、指定管理第二期の初年度を迎え、運営体制を整備し、館の設置目的である「人材育成・産業技術の保存継承・技術革新の機会創出」を推進するための各種企画・事業を実施した。

## II. 公益目的事業

### 1. 一般事業

#### (1) 持続可能な環境への取り組み

「もったいない総研」の運営を通じて以下の環境関連の事業を実施した。（別添：もったいない・すたいる2010 参照）

#### ① もったいないスクール2010（北九州ひまわりプロジェクト2010）の実施

平成17年度より、子供たちを対象とした環境教育を進めるため「もったいないスクール」を開催してきた。今年度は（社）北九州青年会議所と共同で「北九州ひまわりプロジェクト2010」に取り組み、下記を実施した。

##### i) 講演会 「ひまわりを活用した地域活性化」

静岡県富士市が進めている「ひまわり」を利用した特産品づくり「花エコプロジェクト」のプロジェクトの中から、静岡県立吉原工業高等学校が行なっているトイレットペーパー「ひまわりロール」の開発・販売事業を紹介した。

- ・実施日：10月16日（土）14時～15時
- ・場所：ホテルクラウンパレス小倉9階会議室
- ・聴講者：90名

##### ii) 寸劇「環境戦士 アースマンショー」

寸劇を通じて、親子に「ひまわり」の有効さや「もったいない」精神の浸透・普及を図った。

- ・実施日：10月17日（日）13時～14時
- ・場所：紫川水上ステージ
- ・聴講者：100名

##### iii) 「エコスタイルタウン2010」への参加

「エコスタイルタウン2010」に「北九州ひまわりブース」を出展し、ひまわ

りの種と菜の花の種の搾油機を設置して、ブース来場者に搾油体験をしてもらった。

- ・ 実施日：10月16日（土）、17日（日）10時～17時
- ・ 場所：市庁舎横エコスタイルタウン会場
- ・ 来場者：200名

## ② もったいない精神（こころ）の普及

“もったいない精神（こころ）”の普及を目的として、以下の活動を実施した。

### i) 環境「もったいない」作文の募集、表彰

小・中学生の環境問題への関心を深めることを目的に、北九州市PTA協議会と協働で「環境作文」を募集・表彰を行うと共に、入賞作品を活用した啓蒙事業を実施した。

- ・ 募集対象：北九州市内全域の小学5年生、中学2年生
- ・ 応募数：

|       | 平成22年度 | 平成21年度   |
|-------|--------|----------|
| 応募総数  | 651名   | 2,030名   |
| (小学校) | (494名) | (1,617名) |
| (中学校) | (157名) | (417名)   |

- ・ 表彰式 日時：平成23年1月15日（日）  
場所：商工貿易会館2階多目的ホール
- ・ 啓蒙事業：
  - (ア)入賞作品展  
入賞作品全20点をタペストリーに加工し、北九州イノベーションギャラリーで展示した。
  - (イ)ラジオ媒体による作品紹介  
FM北九の番組に市長賞受賞者が出演し作文を朗読した。
  - (ウ)市内全小学校への啓蒙事業  
入賞作品をCD化し、市内全小学校へ配布した。

### ii) 「ブラック・イルミネーション&キャンドル eco ナイト in 北九州 2010」

環境省の『CO2削減/ライトダウンキャンペーン』と、民間団体の『百万人のキャンドルナイト』の趣旨に賛同し、「ブラック・イルミネーション&キャンドル eco ナイト in 北九州 2010」を実施した。

#### (ア)ブラック・イルミネーション

- 実施日：冬至（12月22日）、12月23日 18時～20時
- 内容：CO2の削減を目的に、北九州活性化協議会の会員企業・団体を対象に事業所照明の消灯キャンペーンを実施した。

#### (イ)キャンドル eco ナイト

- 実施日：12月23日 18時～20時

- 場 所 : 門司港レトロ地区 (港ハウス広場周辺)
- 内 容 : (ア) 手作り再生キャンドル(約 1,000 個)の点灯 (観光客と協働)  
(イ) 旧門司税関で帆柱少年少女合唱団やゴスペルシンガーグループの賛美歌等の合唱
- 参加者 : 約 500 名

### iii) 食と農のプロジェクト

地産地消によるフードマイレージの削減や身体にやさしい有機栽培作物を広めている「食のロハス」の理解・増進を目的に、「もったいない総研」ホームページによるオーガニック農園やレストラン、ショップ、ネットワーク団体の紹介と発掘を行なった。

### iv) 年長者研修大学校への出前講演

シニア層への「もったいない総研」の直近の活動紹介、および「もったいない総研」が企画立案したリサイクル・トイレットペーパー「北九州紙えこっパー」の紹介を目的に出前講演を実施した。

- (ア) 穴生学舎 : 実施日 9月28日、参加者 30名  
(イ) 周望学舎 : 実施日 1月20日、参加者 42名

### v) 北九州市 PTA 協議会へ寄付

大分製紙(株)(リサイクル・トイレットペーパー「北九州紙えこっパー」の製造・販売を実施)からの寄付金20万円を子供の環境教育の一助として北九州市PTA協議会に寄付した。

## ③ もったいない塾の開催

市民や企業の意識啓発を目的に北九州シティFMの環境番組「エココロWind」にて、月1回「ラジオもったいない塾」を企画・運営した。

## ④ 広報活動

もったいない総研の活動を周知するため、以下の広報を行った。

- i) 広報誌「もったいないスタイル」の発行(平成23年3月、1500部)  
ii) もったいない総研ホームページの改訂

## (2) 産学連携による高度人材の確保・育成への取り組み

### ① 北九州地域産業人材育成事業の企画・開発

平成21年度より「産学連携研究会」を設置し、検討を行ってきたKPECにおける産学連携事業について、「地域の中堅・中小企業の経営革新と地域の産業および都市基盤の強化のため、中長期的な視野に立った産業人材の育成が必要である」との報告をまとめ、平成22年度5月の理事会、評議員会に報告し、事業化についての承認を得た。

これを踏まえて、本年度は、平成23年度に向けた事業化のための環境整備及び事業

計画編成のための準備作業等を実施した。

**i) 産業人材育成事業推進のための組織づくり**

地域の大学及び企業のニーズに対応した産業人材育成の環境創りと事業推進のため、大学及び地域企業のコンソーシアムによる推進組織「北九州地域産業人材育成フォーラム」を設置した（別紙1：委員名簿、運営体系）。

**ii) 産業人材育成事業の実行計画の企画・立案**

北九州市内の大学における産業人材育成関連制度等を調査・整理し、「北九州地域産業人材育成事業の企画・計画案を取りまとめ、長期インターンシップを中心としたH23年度事業の実行計画の立案を行い、北九州市と共同実施・運営をするための環境づくりを行った。

**《産業人材育成事業の実施方向》**

- ・高度人材育成プログラム（新卒技術者のキャリアアップ）  
地域の大学・企業の連携による長期インターンシップ事業の企画・運営
- ・社会人育成プログラム（就業技術者のリカレント・スキルアップ）  
地域の大学の社会人育成プログラムの活用による人材育成事業の企画、運営
- ・青少年育成プログラム（小・中高生の社会、就業体験・理数教育支援）  
北九州地域の企業及び教育機関と連携した青少年育成プログラムの検討

**② MBAプログラムによる社会人教育の実施**

企画委員会の社会人教育の推進事業として、北九州市立大学のMBAプログラムを活用し、マネージメントを中心とした企業人の経営力向上プログラムを実施した。

**i) 実施結果**

- 事業名 : 「MBA in KIGS 2010」
- 実施期間 : 平成22年9月1日(水)～3日(金)、9月11日(土)
- 講座 : 8講座(約12時間)
- 応募者 : 77名(募集30名)

**(3) 次世代を担う人材の育成への取り組み**

**① 経済人による義務教育支援活動の推進**

経済人（経営者、従業員）及び企業の立場から義務教育現場の正常化、活性化を図るため、平成21年度より「義務教育支援活動研究会」を設置し、教育環境の改善に資する方策と青少年の健全な育成の研究を行ってきた。

その研究結果を、平成22年度5月理事会、評議員会に報告し、事業化について承認を得た。これを踏まえて、本年度は、平成23年度に向けた事業化のための組織体制作り、北九州市教育委員会との調整等の事業実施環境整備及び事業計画の編成のための準備作業等を実施した。

### i) 北九州義務教育支援活動推進のための組織づくり

北九州・経済人による義務教育支援事業を推進するため、地域経済界の代表者及び本事業に賛同をする企業ネットワークによる推進組織「北九州義務教育支援フォーラム」を編成した（別紙2：委員名簿、運営体系）。

### ii) 北九州市教育委員会との事業連携の実施

義務教育支援活動研究会の報告書を踏まえ、義務教育支援について北九州市教育委員会と協議を行い、今後の事業運営における連携推進を確認するとともに市長報告を行い、当活動が北九州市長の公約に組み込まれた。

### 《北九州義務教育支援活動の計画概要》

#### ・親学推進プロジェクト

企業従業員を対象にPTAへの参加促進、親としての意識啓発促進

#### ・社会(企業)体験学習プロジェクト

児童の社会体験、教員の企業体験の機会の提供

#### ・講師派遣プロジェクト

児童、教員および学校管理職を対象にした研修への民間講師派遣

#### ・環境づくりプロジェクト

教育関係者と経済界の連携・協力・交流の促進

## ② 「僕らのハローワーク事業」の実施

地元大学のキャリア教育と地元企業のPRを目的に「僕らのハローワーク事業」を実施した。

### i) 取材事業(キャリア教育推進)の実施

取材企業： 33社（データ更新のみ：47社）

参加学生数： 29人

### ii) 成果品の活用による情報提供事業

取材結果を「現役大学生が紹介する北九州市域の元気な会社情報」をタイトルにCD化し、北九州市域企業及び福岡県下の高校・大学へ配布した。

：配布； 1000枚（150校に配布）

## ③ ひまわり塾の開催

北九州市と共催で、企業人と北九州市職員による北九州市のまちづくりについての自己啓発講座 第19期ひまわり塾を開催した。

実施規模： 塾生27名（企業人15名、市職員12名）

講座及び研究会の開催

・期間： 平成22年7月2日（開講式）から1年間

・開催状況： テーマごとに4グループに分かれて研究活動を行う。

※平成23年7月8日に成果発表会及び閉講式を予定

- ・ 研究会のテーマ及びグループ名
- ： 若松の休日（観光・イメージアップ班）
- ： 黒崎で匠に学ぶ（北九集 仕掛人）
- ： 親はぐ子はぐ応援団（HUGチーム）
- ： We love KOKURA food market（Northern All Stars）

#### （４） 北九州の都市格向上への取り組み

##### ① 「北九州ひとつづくり寄金（北九州夢のかけ橋寄金）」事業の実施

公益財団法人の税優遇措置を活用して北九州市の都市格の向上に資する文化及び教育分野の活動促進と人材育成を図るための施策を、平成21年度より「北九州市民まちづくり基金研究会」を設置し、その方法について研究を行ってきた。

その研究結果を、平成22年度5月理事会、評議員会に報告し、事業化について承認を得た。これを踏まえて、本年度は、平成23年度に向け、事業化のための組織体制作り及び所轄官庁の福岡県との調整等の環境整備及び事業計画の編成のための準備作業等を実施した。

なお、事業の名称を「北九州夢のかけ橋寄金」に変更した。

##### i) 「北九州夢のかけ橋寄金」事業の推進のための組織づくり

「北九州夢のかけ橋寄金」事業を推進するため、「北九州夢のかけ橋寄金委員会」を設置し、募金活動部門と助成審査部門の事業企画・開発を行うと共に推進体制を構築した（別紙3：委員名簿、運営体系）。

##### ≪「北九州夢のかけ橋寄金」事業計画の概要≫

- ・ 募金事業：法人、個人、団体からの募金事業。
- ・ 助成事業：寄金の趣旨に合った助成事業（審査委員会の設置）

##### ② 北九州ミュージックプロムナードの開催

北九州活性化協議会が企画して平成8年に始めた、市民参加・手作り型の軽音楽フェスティバル「北九州ミュージックプロムナード」の実行委員会（委員長；中野副理事長）へ参画し、事業企画の調整を行った（「北九州ミュージックプロムナード2010」は平成22年で15回目）。

##### ③ 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

ビジターズ・インダストリーを民間主導で推進するための機関として平成19年に設置された「北九州市にぎわいづくり懇話会」の企画調整委員会（委員長；小嶋理事長）へ参画し、事業企画の調整を行った。



## (5) 情報受発信・交流事業

### ① A B L E サロンの開催

K P E C 活動の方向性を探り、北九州活性化情報の受発信を行うため、通年事業の一つとして「A B L E サロン」を開催した。

|      | 開催日   | 講演内容  | 参加人数 |
|------|-------|---|------|
| 第65回 | 6月4日  | 「ソーシャルビジネスの振興について」<br>・ 経済産業省 地域経済産業グループ<br>立地環境整備課課長補佐 辻本崇紀氏             | 65名  |
| 第66回 | 11月9日 | 「アジアの低炭素社会を目指して<br>～アジア低炭素化センターの取組～」<br>・ アジア低炭素化センター<br>技術移転マネジャー 飯塚 誠氏  | 52名  |
| 第67回 | 3月18日 | 「地域マーケティング発想による<br>小倉中心市街地のまちづくり」<br>・ 小倉地区中心市街地活性化協議会<br>タウンマネージャー 吉田 潔氏 | 44名  |

### ② 情報受発信の強化

#### i) K P E C ニュースの発行

機関紙として「K P E C ニュース」を編集・発刊し、会員企業をはじめ関係機関・組織に配布した。

配布部数：1000部

発行：年3回（4月27日、8月12日、1月1日）

#### ii) まちづくり講演会の開催

公益財団法人の認定を記念して、まちづくり講演会を開催した。

講師：内閣府「新しい公共」円卓会議 座長

慶應義塾大学 政策・メディア研究科教授 金子 郁容 氏

テーマ：「まちは誰のためにあるのかー新しい公共(おおやけ)の創造  
～地域連携による社会のイノベーションを考える～」

開催日：7月2日(金) 15時～17時

場所：北九州国際会議場メインホール

聴講者：500名

### ③ 地域おこし研修交流

#### ・「地域づくりネットワーク福岡県協議会」への参画

北九州ブロックの代表幹事として「地域づくりネットワーク福岡県協議会」幹事会に出席し事業企画等について協議すると共に、地域づくりフォーラム等に参加し他団体との情報交換・交流を図った。

## (6) まちづくり推進のための事業

北九州市域の活性化を図るため、北九州商工会議所と協働で、小倉・黒崎地区中心市街地活性化支援事業、および3件の中心市街地活性化事業を行なった。

### ① 小倉・黒崎地区中心市街地活性化支援事業

中心市街地活性化基本計画を効率的、効果的に実行するため、「まちづくりの専門家（タウンマネージャー）を配して小倉・黒崎地区中心市街地活性化支援事業を行った。

#### i) 小倉地区中心市街地活性化協議会の活動

(ア) 社会・経済環境が大きく変化している小倉地区について「小倉まちづくり専門部会」を設置して、環境変化への対応策を検討した。

(イ) 小倉駅北口商業ビル(ラフォーレ跡地)への北九州市漫画ミュージアム入居や、小倉ホテル跡地等の大型整備事業について事業主と地元商店街との連携の橋渡し支援を行った。

#### ii) 黒崎地区中心市街地活性化協議会の活動

(ア) 「黒崎二丁目地区市街地再開発準備組合」を設立し、調査研究事業(基本計画策定時)を再開発事業へバージョンアップするなどの事業活性化を促進した。

(イ) 黒崎地区中心商店街のゾーニング計画や年間行動計画に基づいて56件の事業を推進した。

・ 効果 : 空き店舗率が2.9ポイント改善、定住人口が7.5%増加した。

### ② 中心市街地活性化事業

#### i) ホスピタリティ事業

(ア) 商業エリアの魅力づくりとして、地元の大学生による来街者への挨拶推進、イベント情報の提供、清掃活動、地元商店街のイベント支援等を実施。(小倉・黒崎地区)

(イ) 飲食店364店を掲載した「こくらハローズぐるめまっぷ第3版」の発行。(小倉地区)

#### ii) インフォメーション事業

小倉地区商店街の情報発信力向上のため、ホームページ「こくらタウンナビ」を改定。HPデザイン及び検索メニュー等の改善を実施。

・ 効果 : 20%のアクセス増加(対前年比)

#### iii) ナイトバザール事業

黒崎地区の商店街に賑わいを創出するため、地元食材を利用した飲食・インポートグッズ・学生や主婦による手づくりグッズ・B級グルメなど様々な形態の出店店舗によるナイトバザールを実施。

・ 実施日 : 10月9日、30日、31日

・ 効果 : 来街者が増加。(3日間で3万人の集客)

## 2. 指定管理者事業

### ・北九州イノベーションギャラリー（KIGS）事業

平成22年4月から、第2期指定管理者を受託し、北九州市に提出した事業計画に基づき以下の事業方針を掲げて、事業運営に取り組んだ。

#### (1) 事業方針

- ・地域において培われた産業技術とその心を継承する。
- ・イノベーションを促進する環境を整え、イノベーターを育成する。
- ・次世代イノベーターを育成する。
- ・技術者OBの経験を活かす。
- ・多様なネットワークを構築する。
- ・固有の価値・魅力を発信する。

#### (2) 利用者目標・実績

入館者、企画展観覧者、教育普及参加者の数値目標はいずれも達成した。また、企画展観覧者数、教育普及参加者数は記録を更新した。

(これまでの最高値 \*1 : 19,440人 \*2 : 9,906人 : : 共に平成21年度)

《数値目標達成状況》

| 項目             | 計画     | 実績     | 達成率  | 備考                               |      |
|----------------|--------|--------|------|----------------------------------|------|
| 入館者数           | 60,000 | 60,850 | 101% | 東田3館連携事務局を担当し<br>3館の協力関係を強化した    |      |
| 企画展<br>観覧者数    | 17,500 | 21,216 | 121% | 夏企画展テーマ・内容が貢献した                  | (*1) |
| 教育普及事業<br>参加者数 | 7,700  | 10,008 | 130% | ものづくりを体験できるイベント・<br>ワークショップを増加した | (*2) |

#### (3) 活動実績

##### ① 教育普及事業

当館の教育普及事業として、以下の各講座及び、独創的で多彩なイベントを企画、実施し、多くの参加者に好評であった。

##### i) イノベーションフォーラムの開催

(テーマ)

- ・アート会場としての北九州～日本初の国際鉄鋼彫刻展と企業のかかわり
- ・産業会場としての北九州～石炭が拓いた産業と文化：京都との対比

ii) 技術革新講座の開催 (6回)

| 年間 共通テーマ : エコエネルギーを考える |  |    |                    |
|------------------------|--|----|--------------------|
| 番号                     | テーマ  | 番号 | テーマ                |
| 1                      | 分散型エネルギーネットワークがもたらすもの<br>～日本版スマートグリッドを考える～ | 4  | 動力の効率利用に役立つインバーター  |
| 2                      | リチウム電池の開発と今後の2次電池の展望                       | 5  | 家庭の中のエネルギーを考える     |
| 3                      | 太陽電池のロードマップ                                | 6  | 北九州スマートコミュニティーへの挑戦 |

iii) ものづくり講座の開催 (計6回)

- ・工業高校生・大学生対象の出前講演 (5回)
- ・KIGSでのものづくりに関する講演(1回)

iv) デザイン講座の開催 (3回)

- ・デザインのできること デザインのすべきこと
- ・中小企業のオフエンス的デザイン戦略
- ・文化のデザイン～魅力のプロデュース

v) その他、市民講座、工房塾、ワークショップなどの事業を実施した。

② 企画展事業

当館のコンセプト～イノベーション～を切り口とした展示会及び特別展を以下により開催した。

| 企画展名称    |                               | 期 間       |            | 開館<br>日数 | 観覧<br>者数   | 備 考   |
|----------|-------------------------------|-----------|------------|----------|------------|---|
|          |                               | 開館        | 閉館         |          |            |   |
| 春<br>企画展 | 時代を<br>生き抜く<br>宝物たち<br>展      | 4月<br>24日 | 7月<br>4日   | 62       | 4,876      | 戦前戦後のブリキ玩具に見る日本の職人技、その技術とデザインを学ぶ  |
| 特別展      | 世界の<br>帆船<br>模型展              |           |            |          | 無料         | 優れたものづくり(加工・組立技術)で精密精巧な帆船を作る技を見る  |
| 夏<br>企画展 | 立体の夢<br>・3D<br>大集合展           | 7月<br>17日 | 9月<br>26日  | 72       | 11,786     | 最新の3Dテレビや、3Dプリンターなど、立体/3Dの技(見る技と作る技)をみることで、人間の発想の豊かさ、新しい工夫を生み出す楽しさを実感する |
| 秋<br>企画展 | 科学<br>模型展                     | 10月<br>8日 | 11月<br>28日 | 44       | 2,345      | 科学模型に触れ、動かしながら、音が出る、物が動くなどの仕組みを学ぶことを期待した。                               |
| 冬<br>企画展 | 時間<br>旅行展                     | 1月<br>20日 | 3月<br>6日   | 40       | 1,813      | 人間が築いた時間を計る技術(時計)から離れ、宇宙、地球、生命、物質などに存在する時間を考え、常識的な既成概念を考え直すきっかけとする      |
| 特別展      | 北九州発<br>!イノベ<br>ーションの<br>たまご展 | 12月<br>8日 | 12月<br>19日 | 12       | 無料         | 北九州のイノベーションにつながるような地元団体の活動(新技術)に着目、展示した。実用化に向けた多くの挑戦を期待している             |
| 特別展      | 多面体<br>折紙展                    | 2月<br>16日 | 2月<br>22日  | 6        | 無料         | 理論とデザインが融合する創造的な多面体折紙の展示により、柔軟な発想をデザインに触れることを目指した                       |
| 春<br>企画展 | カメラの<br>進化展                   | 3月<br>19日 | 6月<br>19日  | 13       | 396        | (平成23年度春企画展開催)  |
| 計        |                               | 230日      |            |          | 合計 21,216人 |   |

### ③ 調査研究事業

地域の企業や大学及び博物館との連携、産業技術の保存と次世代への継承を目的として、国立科学博物館、九州国際大学、西日本工業大学・技術士会などと連携し、自主調査研究を行うとともに共同研究や委託研究を行った。

《実施内容》

- i) 特殊・大型重量物の輸送据付技術の変遷
  - ・ K I G S 研究部門の監修のもと、阿蘇紘一氏(山九株式会社OB)などの協力を得て実施した。
- ii) ユニバーサルデザインの視点から見た公共の水まわり(トイレ)の変遷
  - ・ K I G S 研究部門の監修のもと、西日本工業大学へ委託した。
- iii) 白熱電球の技術の系統化調査
  - ・ 国立科学博物館と共同研究を実施した。
- iv) 北九州産業技術史の調査・研究(全体編：平成22年度～23年度)
  - ・ K I G S 研究部門の監修のもと、九州国際大学へ委託した。
- v) 北九州産業技術史の調査・研究(個別企業編：平成22年度～23年度)
  - ・ K I G S 研究部門の監修のもと、日本技術士会北九州地区へ委託した。
- vi) 世界の科学博物館の概要に関する調査・研究
  - ・ K I G S 研究員による調査を実施した。

### ④ 映像・図書収集及び公開

企画展事業との連動する図書等もあわせ、イノベーション、産業技術、デザインに関する映像の制作や図書を積極的に収集するとともに、迅速な公開に努め、利用者の研究や学習を情報面から支援した。

- i) 図書の購入公開
  - ・ 22年度図書の購入数：526冊(書籍 277冊 雑誌 249冊)  
： 技術専門書、企画展及び各種講座やフォーラムに関連する書籍、定期刊行物(新聞・雑誌)などに分類し多分野に亘って広く購入した。また、種類別コーナーを区分してわかりやすく一般へ公開した。
- ii) 映像の作成
  - ・ 以下の3本を制作した。
    - (ア) 産業技術革新物語として、総重量3,500トンに及ぶ超重量物の輸送・据付技術革新の「重力への挑戦：超重量物輸送・据付：ユニットドーリー物語(山九株式会社)」を自主制作した。
    - (イ) 技術の継承保存版として、北九州マイスター技術紹介3D(立体映像)「旋盤：6面体キュービクの加工技術」映像を制作した。
    - (ウ) K I G S 紹介DVDの改訂版を制作した。

### ⑤ その他、多目的スペースを活用した展示会の開催

館を広く市民に開放し、来館者への満足度を高めることを目的に多目的スペースを活

用した展示会を次の通り開催した。

- i) 北九州建築デザインコミュニティー受賞作品展
- ii) 中学校理科自由研究作品展
- iii) 小学校理科研究発表展示
- iv) 福岡県景観文化展美しい景観選受賞作品
- v) F A I S 非接触給電実証実験
- vi) もったいない作文表彰作品展示

### Ⅲ. その他事業

#### (1) スポーツ振興チケットによる青少年の健全育成事業

定款第4条第5項の「児童又は青少年の健全な育成事業」を踏まえ、「スポーツ振興チケット」の作成とその運用を通じて、「青少年のスポーツマインドの醸成」と「健全な心身の育成」を図ると共に、地域シンボルとしての「ギラヴァンツ北九州」の応援を通じてまちづくりの心を醸成する「青少年の健全育成事業」を実施した。

##### ① 事業の内容

###### i) 「KPECスポーツ振興チケット」の企画・製作

「ギラヴァンツ北九州」のホームスタジアム公式戦に使用できる「KPECスポーツ振興チケット」を企画・製作した。

###### ii) 「KPECスポーツ振興チケット」の運用

下記「スポーツ振興による青少年の健全育成実行委員会」を通じて平成22年9月から北九州市域の小中学校生徒全員（約76,000人）に配布した。

##### ② 事業運営組織

・「KPECスポーツ振興チケット」事業を契機に、北九州市教育委員会、北九州市子ども家庭局、北九州市企画文化局、北九州商工会議所、北九州活性化協議会の5者をメンバーとする「スポーツ振興による青少年の健全育成実行委員会」を組織し、「KPECスポーツ振興チケット」の実効ある運営を行った。

##### ③ 事業の成果

###### i) 数値上の効果

###### (ア) 平均入場者数（18試合）、入場料収入

(株)ギラヴァンツ北九州の平成22年度決算発表より)

|        | 平成22年度   | 平成21年度  | 差       |
|--------|----------|---------|---------|
| 平均入場者数 | 4,189人   | 3,409人  | 780人    |
| 入場料収入  | 11,122万円 | 1,150万円 | 9,972万円 |

(注)平成22年度入場料収入に「KPECスポーツ振興チケット」分を含む。

###### (イ) 「KPECスポーツ振興チケット」を使用した入場者数

配布を始めた9月からの6試合で4,604名の入場があった。チケットの認知度が高くなったと思われる最終3ゲームでは総入場者数の3割を占め、チケットが有効的に活用されていると判断される。

###### ii) 運営上の効果

・「KPECスポーツ振興チケット」の運用を通じて、地域のスポーツシンボルとしての「ギラヴァンツ北九州」が小学校・中学校に浸透し、事業目的である青少年のスポーツマインドを高めることに貢献した。

- ・「KPECスポーツ振興チケット」を活用して近郊市町村との連携を行うことにより、近郊市町村を含めた「まちづくり」の基盤づくりが進んだ。

#### ④ 今後の取り組み

「スポーツ振興による青少年の健全育成実行委員会」の中で、「KPECスポーツ振興チケット」を活用した各種の企画、開発を行い、運用効果を上げていく。



#### IV. KPEC組織活性・強化事業

##### (1) 会員サービス事業

会員への情報伝達の効率化とスピードアップを図るため、メール配信システムを構築した。

##### (2) 会議等の実施

定款に基づく所定の会議等を開催し、重要事項の審議、決裁を行った。

###### ① 評議員会の開催

|               |   |       |       |
|---------------|---|-------|-------|
| 第2回評議員会       | : | 平成22年 | 5月19日 |
| 第3回評議員会(書面開催) | : | 平成22年 | 5月25日 |
| 第4回評議員会(書面開催) | : | 平成22年 | 7月21日 |
| 第5回評議員会       | : | 平成23年 | 3月7日  |

###### ② 理事会の開催

|              |   |       |        |
|--------------|---|-------|--------|
| 第2回理事会       | : | 平成22年 | 5月19日  |
| 第3回理事会(書面開催) | : | 平成22年 | 7月17日  |
| 第4回理事会       | : | 平成22年 | 11月22日 |
| 第5回理事会       | : | 平成23年 | 3月7日   |

###### ③ 執行役員会議の開催

|           |   |       |        |
|-----------|---|-------|--------|
| 第1回執行役員会議 | : | 平成22年 | 4月16日  |
| 第2回執行役員会議 | : | 平成22年 | 5月11日  |
| 第3回執行役員会議 | : | 平成22年 | 6月3日   |
| 第4回執行役員会議 | : | 平成22年 | 8月4日   |
| 第5回執行役員会議 | : | 平成22年 | 9月14日  |
| 第6回執行役員会議 | : | 平成22年 | 10月15日 |
| 第7回執行役員会議 | : | 平成22年 | 12月15日 |
| 第8回執行役員会議 | : | 平成23年 | 1月18日  |
| 第9回執行役員会議 | : | 平成23年 | 2月18日  |

以上